



来年度のESG活動報告作成に向けて ～改善すべき点と対応策～

区分	報告	対象範囲	全運用資産
エグゼクティブサマリー			
<ul style="list-style-type: none"> 来年度のESG活動報告作成に向けて、改善すべき点や対応策等について報告するもの 			
バックグラウンド <ul style="list-style-type: none"> 来年度のESG活動報告の作成を検討するにあたり、GPIF内部に加えて、外部(運用機関、コンサルタント、有識者)の方々に、改善すべき点等について、ヒアリングを実施 ヒアリング結果等を踏まえて、「ESG活動報告」の改善に向けて検討すべきポイント及び対応を報告 		フィードバック期間及び検証方法 <p>---</p>	
今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> 印刷・デザイン・翻訳業者等を選定後、検討を本格化 5月もしくは6月経営委員会にて骨子案を報告予定 		便益及びリスク <p>便益</p> <ul style="list-style-type: none"> ESG活動報告の改善を通じたGPIFのESGに関する取組みに対する理解向上 	
		KPI <p>---</p>	
		その他 <p>---</p>	



来年度のESG活動報告作成に向けて ～改善すべき点と対応策～

年金積立金管理運用独立行政法人



2019年1月21日

改善意見を受けて検討すべきポイント

改善意見	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 読み手の「国民」は誰を中心に想定しているのかを明確にして情報発信すべき 	<ul style="list-style-type: none"> • 年金制度の持続可能性の如何により、大きな影響を受ける「若年層」、市場の底上げの観点から「企業経営者」を中心に意識した記載とする
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「国民」を読み手とするのであれば、「ESGとは」についての記載をさらに拡充すべき 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入部分で「ESGとは」「GPIFがESGを重視する理由」に関する記述を拡充する方向で検討
<ul style="list-style-type: none"> ➤ GPIFが考えるマテリアリティ(企業が考慮すべきESG課題)について示すべき 	<ul style="list-style-type: none"> • GPIFの考えを直接的に示すことについては、期待が高いものの、企業経営に過度な影響を与えるという観点から適切ではない(ニッセイAMに委託している調査研究の結果を紹介することは可能)
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 気候変動がポートフォリオに与える影響などの分析を拡充すべき ➤ TCFDなどの国際的なフレームワークに沿った開示を検討すべき 	<ul style="list-style-type: none"> • ポートフォリオにおける気候変動リスク分析に必要なデータと情報開示支援を行う業者を調達することで、TCFDフレームワークに沿った開示を行う方向で検討を行う
<ul style="list-style-type: none"> ➤ より読みやすく、親しみやすくするために、デザイン性を高めるべき 	<ul style="list-style-type: none"> • 前回は業務概況書との統一感を重視する観点などから、業務概況書と同一の印刷・デザイン会社を選定したが、平成31年度版については、両者の公募調達を切り分けて行うことで、デザイン性を重視した選定を行う
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 英語版の公表時期が遅いので、前倒しできる方法を検討すべき 	<ul style="list-style-type: none"> • 前回は印刷業者と翻訳業者を別々に調達したことにより、日本語版が確定した後に翻訳を開始せざるを得なかったが、印刷・翻訳等を一体的に行える業者の公募を行うことで、公表時期の前倒しが可能となる見込み

(注)国内株式の運用受託機関全社、コンサルタント、有識者から「ESG活動報告」の改善点に対する意見聴取を実施した際に多く指摘を受けた点やGPIF内部で改善すべきという声が上がった点を中心に記載

ESG活動報告書/ESG推進活動の 改善に向けて必要な調達

報告書作成支援

コンテンツ作成支援

翻訳

報告書デザイン・印刷

<改善が期待されるポイント>

- ✓ 日本語・英語版の完成タイミングのラグ短縮(2か月半⇒1か月?)
- ✓ デザイン性向上
- ✓ コンテンツ拡充に伴うページ増(36ページ⇒60ページ)
- ✓ 印刷部数の増加(日本語3500+英語1600⇒日本語4500+英語1000)

※概算所要額 約1100万円(ページ数の増加分を調整後で昨年度と同程度)

気候変動がポートフォリオに 与える影響に関する分析 及び情報開示支援

気候変動データ提供

気候変動データ分析支援

<改善が期待されるポイント>

- ✓ ポートフォリオにおける気候変動リスクの分析拡充

前回(平成29年度版):年度末の内外株式のみ

⇒今回(平成30年度版):内外株式+内外債券(ヒストリカル分析)

気候変動シナリオ別(2°Cなど)の影響分析

※概算所要額 約920万円

来年度のESG活動報告作成スケジュール(見通し)

＜今後のスケジュール＞

月	今回予定	前回実績
1月	経営委員会【報告:改善ポイント】(21日) 契約審査会(気候変動情報開示支援&制作・印刷業者)(21日)	
3月	気候変動情報開示支援業者 及び 制作・印刷業者選定 執筆準備	制作業者選定 執筆準備
4月		経営委員会【懇談会:概要】
5月	経営委員会【報告:骨子】	
6月		経営委員会【懇談会:骨子】
7月	経営委員会【報告:完成版】	経営委員会【報告:完成版】 英訳開始
8月	(日本語)HP公表、冊子納品	(日本語)HP公表、冊子納品
9月	(英語)HP公表、冊子納品	
10月		(英語)HP公表、冊子納品

1か月以内
を目標

2か月半

※ポートフォリオの気候変動リスクに関する分析は、事前準備を行ったとしても、7月第1週に公表される保有銘柄開示の後に行う必要があり、その部分に関しては出稿が遅れ、全体のスケジュールが後ろ倒しになる可能性がある。